

オペレートナビ EX (Ver2.1 / 3.0) のご紹介

オペレートナビは、マウスやキーボードの代わりにスイッチやテンキーを使ってパソコンを操作するためのソフトウェアです。身体の動作する箇所がわずかであっても、適したスイッチを選択することで、パソコンを操作することができます。

パソコンは、身近な方との意思伝達だけでなく、メールやインターネットを利用して多くの方とのコミュニケーションの道具として活用できます。また、TV やビデオの視聴や家庭機器のコントロールなど多様な機器制御として活用することも出来ます。パソコンを活用して利用者自身の操作で趣味、創作、コミュニケーション、機器制御など、活動の範囲を大きく広げてください。

オペレートナビの構成



Windows Vista や XP など利用する OS に合わせてオペレートナビの種類が異なります。
動作環境、製品番号、価格等の詳細については、NEC から提供されている製品情報をご覧ください。
構成例に加え、パソコンの設置台やスイッチを固定するアーム、環境制御装置やブザーなどが必要となる場合があります。

オペレートナビ利用の特徴

・パソコンの操作支援

マウス操作やキーボード入力操作を1個(5個まで利用可)のスイッチで行うことができます。スクリーンキーボードを表示しスイッチの操作で自動スキャンやステップスキャンによりキーを選択し、そのキーの機能の実行でパソコンの操作を行います。

・操作の場面に適したスクリーンキーボードの活用

利用するソフトウェアに合わせてスクリーンキーボードが自動的に切り替わります。ソフトウェアに適した操作に特化したスクリーンキーボードを利用することにより、より効率的な操作が行えます。

・スクリーンキーボードの作成や修正

標準で用意されているスクリーンキーボードを利用者自身がキーやコマンドを追加、修正したりできますので、より使いやすい操作にカスタマイズできます。

・他の方が作成したスクリーンキーボードの活用

オペレートナビでは標準でも各種のスクリーンキーボードが用意されています。また、他の利用者が作成したスクリーンキーボードが Web サイトやメールで公開されています。

で、それらのスクリーンキーボードを利用することで新規のソフトウェアの対応などが容易になります。

・利用者自身がカスタマイズ可能

オペレートナビは、操作の速度や表示の仕方など各種の設定を利用者自身で行うことが出来ます。支援者の負担を減らすだけでなく、微妙な速度の調整など利用者自身が納得のいくまで調整が可能です。

(スイッチの選択や設置は支援者が行う必要があります。)

・楽しくパソコンを利用

パソコンは、簡単な意思伝達機能の利用だけでなく、豊富なソフトウェアを自由に選択して趣味や生活や仕事などに活用することができます。

・機器の拡張

利用や設置の形態に合わせてデスクトップやノートパソコンなど市販の各種パソコンを選択することが出来ます。また、パソコンは、用途に合わせてソフトウェアの拡張やプリンタ、イメージスキャナ、TV チューナーなど多様な外部機器の拡張が可能です。リモコンなど環境制御機器(家庭機器の制御)も利用できます。

オペレートナビの動作

オペレートナビの動作の仕組みを1個のスイッチを利用した例で説明します。

1) パソコンの起動

パソコンの電源を入れるとオペレートナビが自動的に起動し、画面上に「AP 起動」キーボードが表示されます。(パソコンの電源は、朝一番に家族の方や支援者の方が投入)



同様に「ワードパッド」や「メモ帳」の場合は「かな」キーボード、メールソフトの「Windows メール」の場合は「Windows Mail」キーボード、「ソリティア」の場合は「ソリティア」キーボードなどアプリケーションに対応したスクリーンキーボードに自動的に切り替わります。



2) スキャン動作開始

スイッチを押すと、スクリーンキーボード上でスキャン動作が開始します。(自動スキャン時)



3) スキャン範囲の絞込み

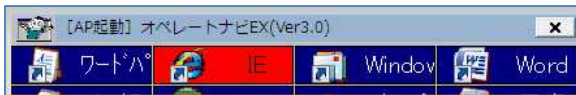
スクリーンキーボードの中で選択したいキー(位置)にスキャン領域が重なったときにスイッチを押すと、そのキーが含まれるグループの中で、さらに詳細なスキャンが始まります。



同じように、グループの中で選択したいキーにスキャン領域が重なったときにスイッチを押すことで、そのキーに登録されているコマンドやキーが実行されます。オペレートナビは、スキャンの移動や選択した時にそのグループ名やキーの名前を音声合成や効果音を鳴らし、正しく選択したことを確認することができます。

4) キー選択

選択されたキーは赤く変化し、そのキーに登録されたコマンド(例では Internet Explorer の起動)が実行されます。



アプリケーションが起動されると、そのアプリケーションに対応したスクリーンキーボードに自動的に切り替わります。「Internet Explorer」プログラムの場合は「IE」キーボードが自動的に表示されます。

5) アプリケーションの操作 (Internet Explorer)

アプリケーションが起動され、対応するスクリーンキーボードでスキャン動作を行い、実行したいキーを選択することでアプリケーションの操作を行います。

6) マウスの操作

マウスで操作する方が効果的な場面もあります。そのような時は「KB 切替」キーを選択して、「マウス」キーボードを利用します。「マウス」キーボードには、マウスの移動、左右のボタンのクリックやダブルクリックなどマウス操作などが登録されています。



7) アプリケーションの終了 (Internet Explorer)

Internet Explorer の終了は「閉じる」キーを選択します。このキーには「Alt+F4」のキーコードが登録されており、このキーを選択することにより実際のキーボードで「Alt+F4」を押したことと同じ動作が実行され、プログラムを終了します。

オペナビメニュー	
スキャン方向反転	キーボード切替
キーボードの先頭からスキャン再開	アプリケーション操作
グループの先頭からスキャン再開	オペナビウィンドウ操作
一つ上のグループからスキャン再開	アプリケーション起動
.	アプリケーション切替
.	機能切替
.	設定変更
.	Windows終了
.	バージョン情報
.	メニュー閉じる

8) パソコンの終了

スクリーンキーボード上の「メニュー」キーを選択し、「オペナビメニュー」

キーボードを表示します。

次に「オペナビメニュー」キーボード上から「Windows 終了」キーを選択し、続けていくつかのキーを選択してパソコンが終了し、電源がオフとなります。

オペレートナビの活用シーン

オペレートナビは、利用するアプリケーションにより活用方法が大きく広がります。身近な方との意思伝達、メールやインターネットを活用したコミュニケーション。ゲーム、ホームページ作成など利用者の要求と熟練度に合わせてお使いください。

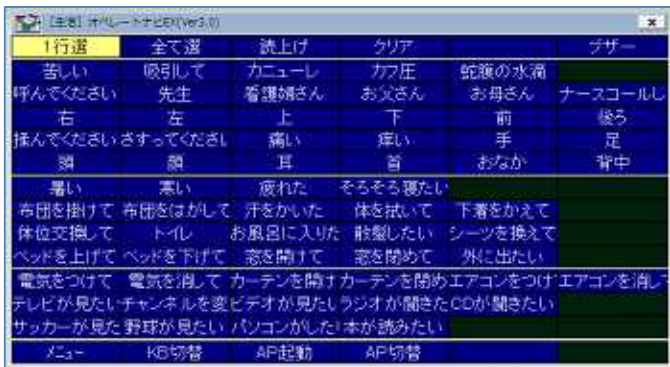
意思伝達

発声ができない利用者と身近な方との間で、基本的なかな文字入力用スクリーンキーボードを用いて会話ができます。



(EX(Ver3.0)では、スクリーンキーボードごとにフォントのサイズなどを設定できますので、用途に合わせてより見やすい画面に修正できます。)

「生活」「挨拶」などあらかじめ定型文が登録されたスクリーンキーボードも用意されており、簡単に指示などの意思伝達をすることができます。



TV 視聴

TV チューナーが用意されているパソコンの場合、パソコン画面上で TV を見ることが出来ます。TV は大きな情報機器であり、利用時間の大きい情報機器です。利用者自身がチャンネルの変更やボリュームの上げ下げなどの操作ができると、家族や支援者に頼む負担の軽減にもつながります。

メールの活用

遠方の友達とメールで会話したり、家族の携帯電話に連絡したりメールは重要なコミュニケーション手段です。同じ障害を持つ方や同じソフトを利用する方とメールを通じて相談やサポートを受けたりすることができます。また、オペレートナビメールリストに参加すると、オペレートナビについて操作方法などいろいろな疑問について同じ環境の利用者に相談することができます。

Web サイトの検索表示

日本各地の Web サイトを検索し、毎日の情報や趣味娯楽の情報、生活情報など自分の欲しい情報を入手することができます。また、利用者自身の障害や福祉の情報も自ら収集することができます。



オペナビアシストページ表示例

ゲームや趣味、創作

ゲームや趣味、創作に利用されている方も多くいらっしゃいます。

利用例

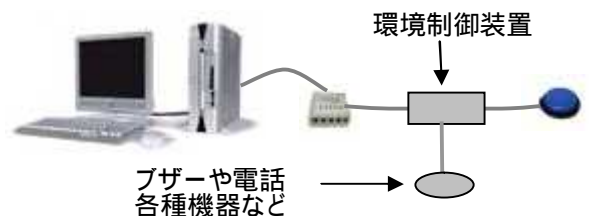
- ・ 将棋、パチンコなどのゲーム
- ・ 作曲等の活動
- ・ ホームページ作成

家庭機器の制御

環境制御装置、スイッチ切替器、学習リモコン等を利用して家庭機器の制御(環境制御)を行うことができます。

環境制御装置で制御

パソコンとスイッチの間に環境制御機器を挿入し、スイッチを長く押しと環境制御装置に制御が渡りそこでブザーや他の機器の電源の ON/OFF、電話の呼び出し等を行います。



パソコンで環境制御

パソコンに学習リモコン装置を接続し、TV のスイッチの ON/OFF、チャンネルの切り替えや照明の ON/OFF などの制御が可能です。

また、パソコンに遠隔操作型カメラを接続することで目線の届かないところも見る、などの利用が可能です。



オペレートナビの各種機能

1) マウスやキー入力などの基本操作

・マウスの動作

指定方向に移動 / 停止、左右ボタンクリック / ダブルクリック、ドラッグ&ドロップ、指定位置に直接移動(ジャンプ)などの動作ができます。



・キーの入力

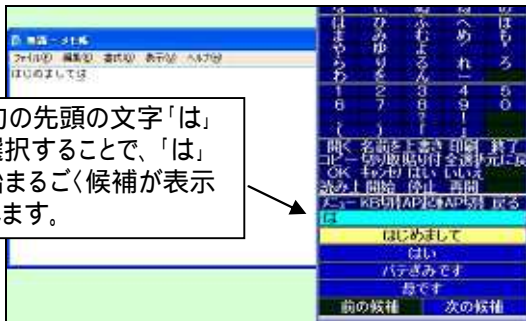
単体のキーや複数同時押しのキー入力、連続押し、文字列の入力などができます。また、これらのキー入力やマウス動作を組み合わせると一つのキーに登録することができます。そのほか、キーには音声合成の読み上げ操作やオペレートナビの機能など各種コマンド機能の登録ができます。

2) 速度等の設定

スキャン速度の設定やスイッチの反応速度、スキャン時の効果音(クリック音や項目名の音声合成)の設定など各種の設定を利用者自身で設定できます。また、スクリーンキーボードの配色やフォントの大きさなど表示方法の設定もできます。

3) 語句補完

語句の先頭文字の数が入力されたときにその文字で始まる語句を候補として表示します(候補は、以前に入力したことのある語句を利用しています)。語句補完は、文字列入力で日本語モードで利用したときに使え、語句を漢字変換で確定したとき、自動的に候補語句に登録が行われます。



4) 合成音による読み上げ

スクリーンキーボードのキーを選択した時の読み上げや、ワープロやWebのデータを音声合成で読み上げる機能があります。この機能は、意思伝達装置や利用者が講演等での読み上げなどに利用されています。



5) フォーカス強調やフォーカス情報の読み上げ

メニューの移動や Internet Explorer のリンク先の移動などカーソルが移動した場所を赤枠で強調表示し見やすくします。また、フォーカス強調された場所のテキストを音声合成で読み上げます。



強調表示には、マウスの周りを円で囲み表示することや、メニューを強調する機能もあります。

6) スキャン方式

オペレートナビでは主にスクリーンキーボード上を自動的にスキャン領域が移動し、スイッチを押すことでスキャンと重なったキーを選択する方式をとっています。この方式をオートスキャン(自動スキャン)方式といいます。複数のスイッチの操作やスイッチの連続押し操作ができる場合、一つのスイッチを押すことでスキャンが手動で一つ移動するステップスキャン(手動スキャン)方式も利用することができます。

オペレートナビ関係情報

問い合わせ先

日本電気株式会社 121コンタクトセンター
電話 0120-977-121

オペレートナビの公式 URL

<http://121ware.com/software/openavi/>
スイッチコネクタ等問い合わせ先

テクノツール株式会社 電話 042-370-6377

<http://www.ttools.co.jp/>

利用者が主催しているオペレートナビのメーリングリスト

<http://www.psv.org/mailman/listinfo/opnv-ml>

オペンナビ アシスト ページ

<http://opnv.space.mepage.jp/>

(利用者のサイトや新規スクリーンキーボードを掲載)